

元気はつらつ新聞

発行：元気はつらつプロジェクト委員会 平成 27 年 3 月 17 日発行

布施公民館内 〒696-0401 邑南町布施 496

TEL・FAX 0855-84-0651 IP 050-5207-5600

No.2

目次

- ・アグリビジネスプラン コンテスト
- ・邑南ラボフォーラム&交流会
- ・島根大学作野教授ゼミ合宿
- ・元気はつらつ段ボールパック
- ・高野山の整備
- ・竹チップ堆肥
- ・みんなの音楽祭報告
- ・来年度の活動計画

錢宝地区

アグリビジネスプラン コンテスト



昨年末より、邑南町が公募していた錢宝地区でのアグリ（農業）に関するビジネスプランの審査会が3月7日（土）に布施公民館でありました。熊本、神奈川県より3名の応募があり、それぞれ提案者の経歴を映した個性豊かなプランが発表されました。

山林を活用し、ログハウスで町おこしをするプラン、インターネットを活用し、邑南町の食を集めたフードフェアや、現在注目を集めているアドベンチャーレース（各地の自然を舞台に多種目なアウトドア競技をこなしながら、ゴールを目指すレース）を錢宝で開催するプラン、そして錢宝地区の住民による加工場やカフェ・レストランの営業と、家庭菜園の余剰食材をカフェやケットと交換し、集いの場を作る「身の丈に合った、持続可能な」プラン。それぞれ夢のあるプランを聞かせていただきました。

今回のアグリビジネスコンテストは、錢宝地区に定住という形にはなりません、発表していただいた三人には、



アグリサポーター（農業協力隊）として地区に関わっていただくことになりました。どうぞよろしく願っています。

また、2月に邑南町役場で開催された、邑南町役場若手職員による「ビレッジプライド」で、布施地区を題材にした「布施から始まるレポリユーション」も併せて発表していただきました。「ビレッジプライド」とは、一人ひとりが自分の事として町の取り組みに積極的に関わり、地域に誇りと自信を持ち、町の活性化に結びつけようという考えで邑南町が昨年より取り組んでいるプロジェクトです。今年、邑南町の中でも人口の少なく、高齢化率の高いこの布施地区に関心をもち、「布施の改革こそ町の改革」をテーマとして、布施地区の定住対策としての空き家の民泊活用を提案した、「チームサプライズ」の皆さんの発表もありました。

邑南ラボフォーラム & 交流会

2月28日（土）に矢上交流センターであった邑南ラボフォーラム。邑南町と矢上高校の未来についての発表、パネルディスカッションがありました。

第1部「邑南町の未来を語る」では、島根大学の学生が錢宝地区の課題に対する解決方法や、町おこしのアイデアを提案してくれました。

第2部では、島根大学作野教授をコーディネーターとして、生徒が減少傾向にある矢上高校の将来ビジョンについて、邑南町長、香木の森公園のガーデンプロデューサーである花房美香さん、矢上高校の出身であり現在同校で教諭をされている木村文明さん、島根大学教育学部1年生の山岸佳意さんがパネラーとして、それぞれの思いを聞かせていただきました。

フォーラム終了後は、作野先生とゼミの学生達、花房美香さんを囲んで、布施公民館で交流会がありました。

当日は錢宝地区の腕自慢の女性達



が朝から料理の支度をしてくださり、沢山の美味しい料理が並びました。くきたちの天ぷらや塩おはぎなど、地元の珍しい料理もならび、とてもおいしくいただきました。

島根大学作野教授 ゼミ合宿



昨年の9月、11月と2回に渡って、島根大学教育学部地理学研究室、作野広和先生のゼミ合宿、及び錢宝地区の世帯訪問調査が行われました。

一昨年のゼミに比べ今回はたくさん生徒さんが参加され、とても賑やかでした。

世帯訪問調査では、学生が二人一組で集落の家々を回り、日常生活で困っていることや地域、農業のことなどを聞いて回りました。皆さんの昔の話に耳を傾け、多くを得て帰られた生徒さんも多かったのではないかと思います。ご協力ありがとうございました。

今年度もゼミ合宿の受入、残りの世帯訪問調査など、島根大学の生徒

さんとの交流を予定しております。地区の皆さま、引き続きよろしく願っています。



元気はつらつ 段ボールパック

昨年の秋に、錢宝地区を発信する段ボール箱を作成しました。ご家族や親戚に地区を思い出し、親しみを感じてもらうように、また地区をまだ知らない方へはPRに繋がるようにとの思いを持っていきます。布施公民館にて一箱100円で配布しておりますので、ぜひご利用ください。



邑南町役場本庁入口に飾ってあります。

行ってみたくなるような場をつくる



高野山の整備

平成25年度から高野山の登山道整備を進め、これまでに頂上展望所周辺の整備、草刈り、ステップの設置などを行ってきました。今後、森の遊び場づくりやイロハモミジの植樹、自然観察登山会の開催や高原小学校児童の課外活動の受入等を計画しています。

また昨年10月には、朝日新聞のコラム「ちよつと里山」で高野山が紹介されました。「熊の腰かけ」と書かれた札のそばに、巨石にまたがった大木があり、今にも動き出しそうな様子」「街並みと刈り入れが済んだ水田を眼下に、県境に向かって里の山々が波打つよう」等と紹介されました。

杉や松の林の所々に、ため池の様なたたら製鉄の跡が見られ、昔の生活を偲ぶことができる高野山。ササユリやしめじ、香茸など、山の大切な資源も守っていききたいです。

また来年度は、赤馬滝の散策道、休憩場所や水遊び場等の整備も計画しています。高野山の登山道と合わせて、地域に愛され、行ってみたくするような場づくりをテーマに力を入れていきます。

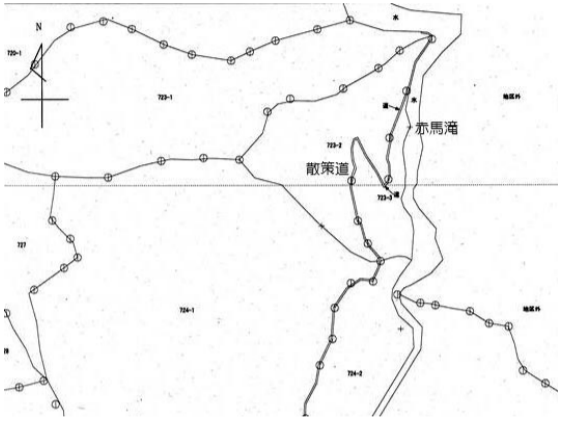
また登山道、散策道の整備を手伝っていただける方を随時募集しております。特に若い方のご協力をお待ちしています。お気軽にお申し出ください。

竹チップ堆肥を作っています

竹林の問題と耕作放棄地の再生に向け、樹木等粉碎機で竹チップにして、それを発酵させて有機堆肥を作っています。

2月23日から4日間、邑南町から粉碎機を貸り、竹を粉碎しました。当初、竹チップを想像していましたが、チップというよりも粉に近い状態になり、堆肥として使用するには最適な状態でした。これを米糠と混ぜて現在発酵中です。先日、掻き混ぜたところ、味噌のような発酵した匂いがしました。半年ぐらいで堆肥として使用できる様ですので、またできたらお知らせします。

竹チップは栄養が豊富で、発酵させることにより微生物も増え、土壌改良には最適だと。また、地表に撒くことにより、雑草の育成も妨げるそうです。さらに、竹チップの堆肥で育てた野菜や稲米は甘みを増し、味もおいしくなると言われています。実際、多くの稲米、野菜生



産者が試され、品評会で優勝されたりと、その成果がでています。試してみたい手はないですね。

また、島根県中山間地域研究センターで耕作放棄地対策として、放牧牛と柵など資材の貸出をしており、その利用を検討しています。

竹林の処理にお困りの方は、邑南町より粉碎機を借用できますので、元気はつらつ地域マネージャーまでお問い合わせください。



老若男女みんなで盛り上がった「みんなの音楽会」

私たちの住んでいる銭宝地域を元気にしたい!!との思いではじめた「元気はつらつプロジェクト」。今年度の目標である、地域の皆さんに喜んでもらえるイベント第2弾として、10月26日(日)、布施公民館において山陰フィルをお招きして、「みんなの音楽会」を開催しました。

山陰フィルというクラシック。はてさて、この銭宝地区でクラシックが受け入れられるのかしら???と、心配しておりましたが、当日は銭宝地区の方はもちろん、近隣からのお客様も含め約110人の来場があり、大変な盛り上がりでした。

音楽会は3部構成で、第1部と第3部が山陰フィルによる演奏で、クラシックはもとより、みなさんになじみ深い曲もたくさんあり、会場全体が自然と音楽に入り込んでいきました。

第2部は、地元若者主催による「イントロ当てクイズ」。昭和初めから平成までの各年代で大流行した曲のイントロを流し、わかったチームが手を挙げて答え、正解が出るとその曲をみんなで歌うという形式で進めました。子どもからお年寄りまで幅広い年代の方が同じチームになっており、それぞれ自分の得意な年代の曲で力を発揮し、

老若男女みんなが協力して優勝を目指し盛り上がりました。

この音楽会は、企画の段階から銭宝の若者が意見を出し合い、準備や当日運営を行いました。素敵な会場・とってもおいしいスイーツがいただけました。カフェ・初々しい進行など、参加した人も運営した人も、大満足の音楽会だった気がします。

音楽は、すべての年代の方が一緒に楽しめるツールです。今後も、「音楽」を切り口にして、ここ銭宝が元気になる取り組みを行っていきたく思います。次回は、ぜひご参加ください。

(レポート 土崎しのぶ)



はつらつプロジェクト来年度の活動計画

つながり・絆づくり

- ・ 布施地区の様子を情報発信
- ・ 地元出身者との交流
- ・ 大学生の銭宝の里体験交流

里山を守る

- ・ 高野山の登山道整備
- ・ 赤馬滝の散策道整備

若者が住みやすい地域

- ・ 若者世代、女性グループとの意見交換

住民の満足感を高める

- ・ オープンカフェ、コンサートの開催
- ・ 地域の福祉活動の充実

農林振興

- ・ 農業者の受入
- ・ 住宅の確保

6次産業の開発

- ・ 加工場の整備
- ・ 地域資源の活用